



XF80mm F2.8 R LM OIS WR Macro
 オープン価格(14万5000円前後)
 コスモスの花にて一心不乱に花粉を集めるミツバチのクローズアップ写真。簡単そうに思いますが、ではお手持ちのカメラにて撮ってごらん下さい。と、そのかして刺されたりとイケナイのでここはひとつ換算122ミリの余裕のワーキングディスタンスとシフトブレにまで対応したXF80mm F2.8 R LM OIS WR Macroの強力な手ブレ補正能力。さらには正確なAF性能をもったX-E3ならではのとおまきましよう。前ボケの美しさにもご注目。



シャッター速度 1/1600秒
 絞り F2.8
 撮影感度 ISO1600
 露出補正 +0.7補正
 フィルムシミュレーション Velvia



シャッター速度 1/110秒
 絞り F1.8
 撮影感度 ISO800
 露出補正 +1補正

フジノンレンズXF35mmF1.4 R
 オープン価格(実勢6万円前後)
 どうですこのインスタ映えしそうな鶏白湯拉麺ショット。ま、インスタやったことないんですが、きつこういう事なのだろうと先入観でやってみました。構えてファインダーを覗くだけでイメージをかきたてるXF35mmF1.4 Rのキレの良さや描写力。ほのかな照明の店内でもF1.4の明るいレンズで感度も上げることがなく手ブレ無し。交換レンズを1本だけ選ぶとしたら、この描写力と立体感でわたくしのイチ押し。



こ
ん
な
寫
眞
に
變
を
す
る

電子寫眞機戀愛

デ ン シ シ ャ シ ン キ レ ン ア イ

第九夜

「トレンディドラマの部屋に憧れ、余計な物を捨てました……生活が出来なくなったとです」とホスト風のソフトスーツと朴訥な語りの自虐ネタで人気を得た芸人の方のギャグでわたくし大笑いしたのですが、それから数年を経て世はまさに大断捨離時代を迎えました。

で、挙句の果てにまっ白な筐体の真ん中にボタンが一個だけボツと……なんつうシンプルをこじらせたようなデジタル家電を見たわれわれ民はそこにかすかな狂気を感じて、ふたたび正常な感覚にもどつつあるように思われます。若干、デジカメ界もその時流に乗った感もありまして、結構ボタンの数を減らしたりした意欲的なモデルも操作の関係で何回も同じボタンを押し続け複雑な階層のメニューにたどり着いたと思ったら余計なトコ触って初めからやり直し……ムッキイ！ 的なこともあって機能に見合った充分な数のボタンを備えたほうが結局扱いやすいというトコに最近落ち着いてやります。

さて、今回は富士フィルムのXシリーズ最新モデル「X-E3」なのでありますが、このシリーズ最小最軽量のコンパクトボディのなかにフラッグシップX-Pro2で培ったテクノロジーがほどよく凝縮され、研ぎ澄ますことに成功したのでございます。さあこのレンジファインダースタイルのなかにいったいどんなテクノロジーが搭載されているのかスペックからひも解いてみようではありませんか。

まず、337gの軽量でコンパクトながらしっかりとホールドできるグリップを備えたボディ天面にはシャッタースピードダイヤルと露出補正の2つのダイヤルが目を引き、シャッターボタンに同軸のメインスイッチは扱い易く、新設の「オートモード切替レバー」はシーンに合わせたアドバンスドSRオートに素早く設定可能、そして背面のボタン類は最小限にまで洗練されて新たにフォーカスレバーを搭載。旧モデルではMENU/OKボタンを囲むように十字キーが配置されて混み合った印象だったがこれでずいぶんとすっきりとしてシンプルな操作感覚になりました。そして外付けの小型ストロボを同梱する手段を選び、背面モニターをシンプルな固定式としたことで複雑な操作を必要とする多

このド迫力にも 戀しちゃう

新発売の中望遠マクロレンズXF80mm F2.8 R LM OIS WR Macroは正直X-E3にはデカイです。でもね換算焦点距離122mm、開放F値2.8の等倍撮影までこなすフィールドレンズとしての性能はピカ。非球面レンズ、EDレンズ、スーパーEDレンズ合わせで12群16枚のキレッキレのレンズたちが描写するシャープな画像にズッキンドッキン間違いなしです。

すっきりスタイル。フジフィルム X-E3

機能性よりスマートなおペレーションと洗練されたミニマムさを持ったデザインに完成したのであります。

しかし、省機能といっても撮影性能が劣っておるわけではございません。X-Trans CMOS IIIセンサーと画像エンジンX-Processor Proはフラッグシップ機X-Pro2と同等の画質を持ち、静止画2430万画素の有効画素数と4K動画撮影機能、ISO200から標準でISO12800、拡張ISO時にはISO51200まで撮影可能といった充実の撮影性能。しかもXシリーズ初のBluetooth®によるスマホやタブレットと低電力での常時接続を可能とし、すぐさまネットにアップすることができるようになりました。賛否もろもろございませうが、SNS等でのコミュニケーションが避けては通れない現代においてはあればやっぱし便利な機能であります。どうせならスマホでは撮れないカリッとした写真でアピールするのをもたいたおかしでありますよ。

AF性能も見直され、像面位相差AFエリアの拡大と各種アルゴリズムの最適化により最速0.06秒の高速オートフォーカスや被写体への追従性が大幅に向上。シャッタータイムラグも0.05秒とリニアなシャッターフィールを実現しております。

それでは普及機でありながら高精細な背面モニターと合わせ約236万ドット電子ビューファインダーで本格的な撮影性能を備えた本機にぴったしのレンズを高性能なフジノンレンズ全25本のラインナップから2本チョイスしてみましょう。

ズームレンズが主流の現代においてもやはり単焦点の標準レンズは魅力……いやそれだけではなくロマンすら感じます。そこでまずはフジノンレンズ XF35mmF1.4 Rを推すことにいたします。F1.4という開放値でも画面全体が均一な解像度とシャープなピントだけではなく、アウトフォーカスのボケの美しさ、そして自然な立体感を表現する35ミリ換算53mmのレンズはXシリーズの代表的な交換レンズと言えるでしょう。

もう1本はこの11月に新発売のXF80mm F2.8 R LM OIS WR Macro。長い名前のワケは高級機能がところどころネーミングに現れちゃうワケなんです、かいつまんで説明しますとフローティングフォーカス方式のシフトブレにまで対応した手ブレ補正機構を搭載した防塵防滴耐低温構造のXレンズで初めて等倍撮影に対応したマクロレンズであります。

X-E3のシンプルなレンジファインダースタイルですっきり丁寧な写真生活をぜひ。



後のせハニー、フラッシュ。

はい、確かに後付け感たっぷりの同梱ストロボでございます。ガイドナンバーGN8のコンパクトなTTL調光フラッシュですが、マニュアル発光モードも備え1/64まで発光強度を調節することができスレーブフラッシュをコントロールするコマンドにもなる多機能さも備えております。が、要らないヒトは外しておけるといって潔さが一番のウリかも。



写真と文 織本知之

フジフィルム X-E3



APS-Cサイズ「X-Trans™ CMOS IIIセンサー」
 高速画像処理エンジン「X-Processor Pro」搭載
 2430万画素、4K動画、Bluetooth® 対応
 ISO200 ~12800/100/125/160/25600/51200
 ボディ幅約121.3×高さ73.9×厚み42.7mm
 本体質量337グラム
 ボディ価格オープン(実勢10万円前後)
 ©富士フィルムFinePixサポートセンター
 ☎050-3786-1060

シンプルイズビューティフル

このすっきりとした背面と天面に写真を撮るために必要なすべての要素が美しく配置されているのであります。左側の電子ビューファインダー、フィクスのシンプルなタッチ式背面モニター、小ぶりのフォーカスレバーが縦横無尽にAFポイントを操作せしめ、シャッタースピードダイヤルと露出補正ダイヤルの美しさに息を飲むのであります。